



◆佐倉市の文化財について

注：一部の写真については、使用許諾の都合上、会議記録には掲載していません。

文化財の分類・体系について

▶ 文化財とは？

- ・ 地域らしさや特徴をあらわす歴史文化を今に語るもの
- ・ 神社仏閣・住宅などの歴史的建造物や絵画・彫刻・古文書などの美術工芸品、祭礼や芸能などの民俗文化財、貝塚・古墳・城跡などの史跡、庭園などの名勝地などがあり、様々なジャンルにわたる。

▶ 文化財の分類

文化財保護法や千葉県文化財保護条例、佐倉市文化財保護条例などの制度で、次のように分類することができる。



文化財の分類・体系について

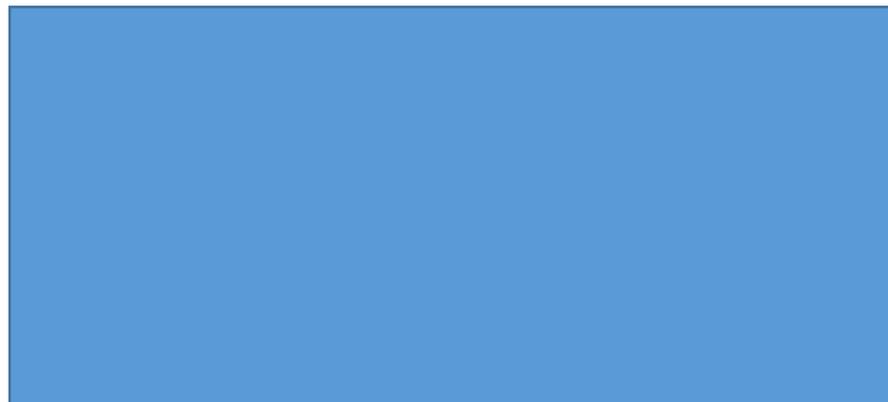
【有形文化財】

▶ 建造物

神社・仏閣・城郭・住宅・近代建築など

▶ 美術工芸品

絵画・彫刻・工芸品・書籍・典籍・
古文書・考古資料・歴史資料など



松林寺「本堂」 (千葉県指定)



「旧川崎銀行佐倉支店」 (千葉県指定)

文化財の分類・体系について

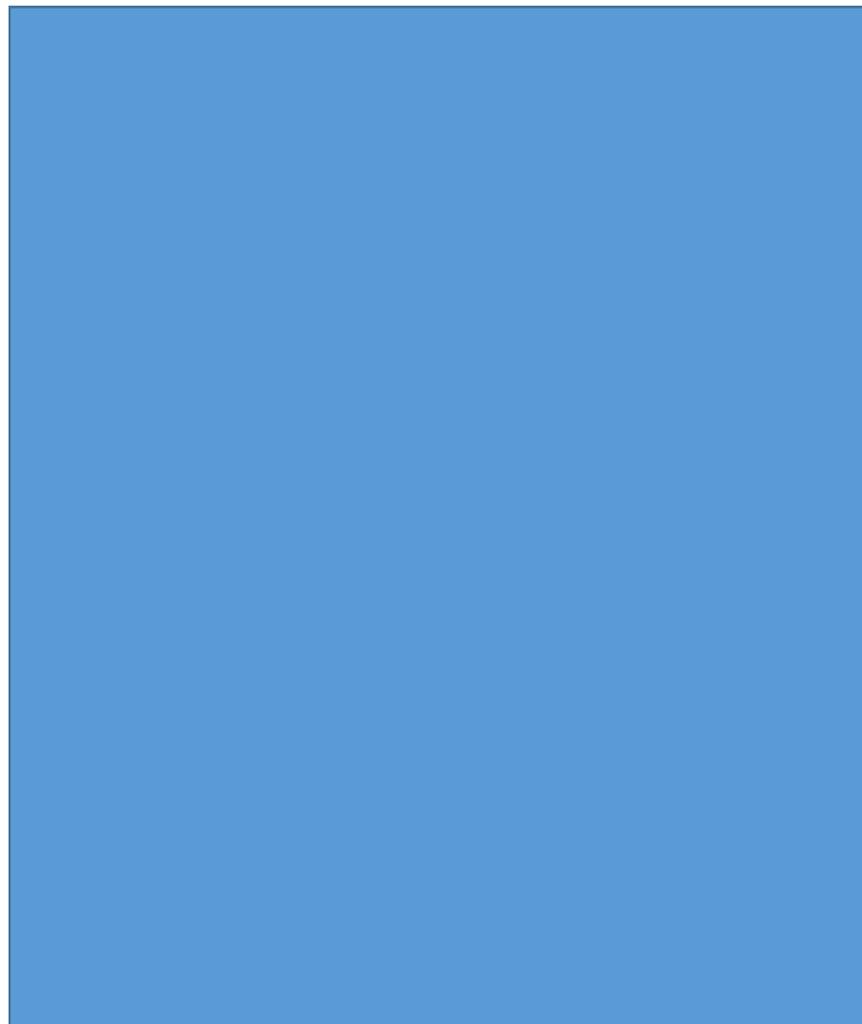
【有形文化財】

▶ 建造物

神社・仏閣・城郭・住宅・近代建築など

▶ 美術工芸品

絵画・彫刻・工芸品・書籍・典籍・
古文書・考古資料・歴史資料など



教安寺「紙本著色釈迦涅槃図」(市指定)

文化財の分類・体系について

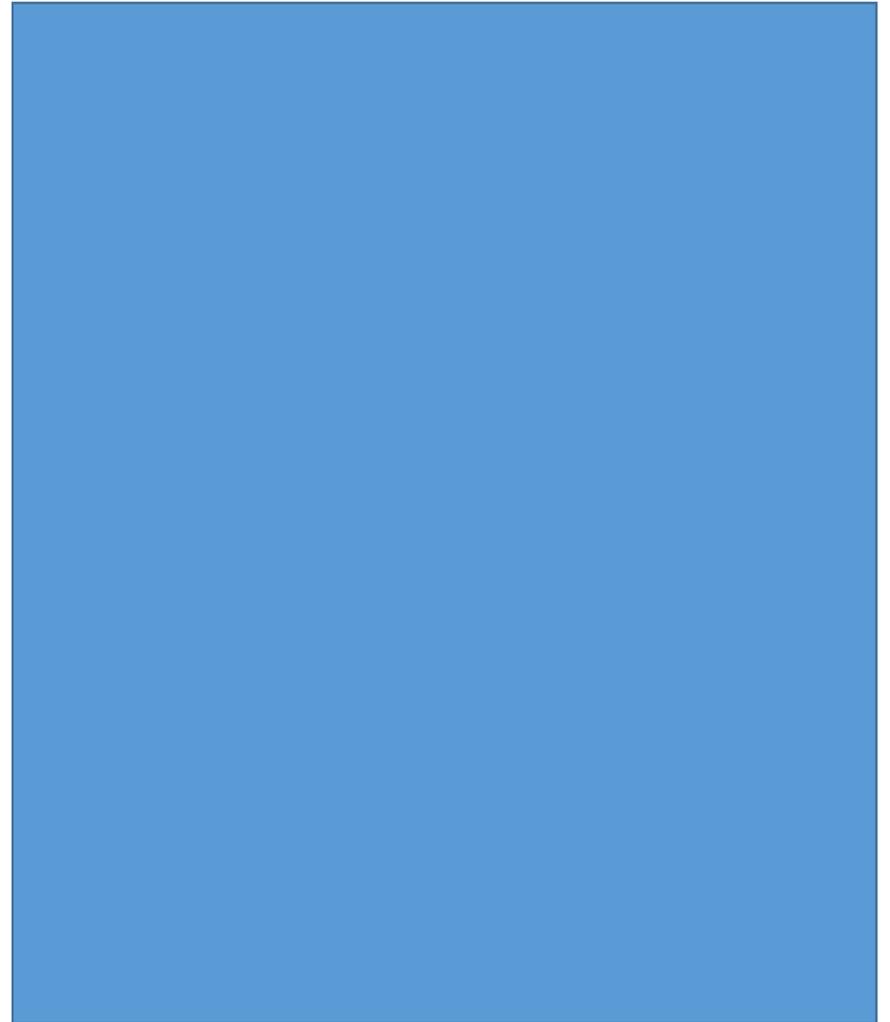
【有形文化財】

▶ 建造物

神社・仏閣・城郭・住宅・近代建築など

▶ 美術工芸品

絵画・彫刻・工芸品・書籍・典籍・
古文書・考古資料・歴史資料など



千手院「金銅五鈷杵」(市指定)

文化財の分類・体系について

【無形文化財】

演劇、音楽、工芸技術など



武術「立身流」の形（千葉県指定）

文化財の分類・体系について

【民俗文化財】

▶ 無形民俗文化財

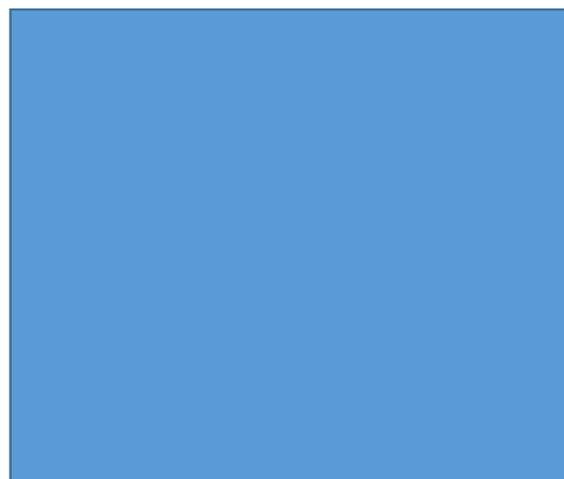
衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗風習、民俗芸能、技術

▶ 有形民俗文化財

無形民俗文化財に用いられる衣服・器具・家屋など



西福寺「坂戸の念仏」 (千葉県指定)



甲賀神社「甲賀神社の鹿面」 (千葉県指定)

文化財の分類・体系について

【記念物】

▶ 史跡

貝塚・古墳・都城跡・旧宅などの
「遺跡」

▶ 名勝

庭園・橋梁・峡谷・海浜・山岳などの
「名勝地」

▶ 記念物

動物・植物・地質鉱物等



「旧堀田正倫庭園」 (国指定)



「夫婦モッコク」 (県指定)

文化財の分類・体系について

【佐倉市市民文化資産】

* 地域住民の手で継承されてきた各地域の個性を表す歴史、文化、自然にかかわる文化遺産

▶ 生活文化資産

▶ 自然文化資産

▶ 芸術文化資産



「田町の御神酒所」 (生活文化)

佐倉市の歴史と文化財

【原始・古代】

▶ ナウマンゾウの化石

飯野や神門から出土

3月25日まで弥富公民館で展示中



▶ 井野長割遺跡

井野小周辺、縄文時代の集落跡。
環状盛土や人びとが暮らした痕跡が
多く出土。



▶ 六崎大崎台遺跡

JR佐倉南、弥生時代の集落。
大規模な集落と集落全体を囲む
環濠（かんごう）が見つかる

佐倉市の歴史と文化財

【原始・古代】

▶ 山崎（やまのさき）ひょうたん塚古墳

全長37メートルの前方後円墳
一定の勢力を持つ人物が葬られたか

▶ 墨書土器の出土

佐倉を含む印旛一帯に多く出土
古代の人々の信仰や生活の姿を知る
手掛かり

山崎ひょうたん塚古墳



仏面墨書土器（和田ふるさと館にて展示）

佐倉市の歴史と文化財

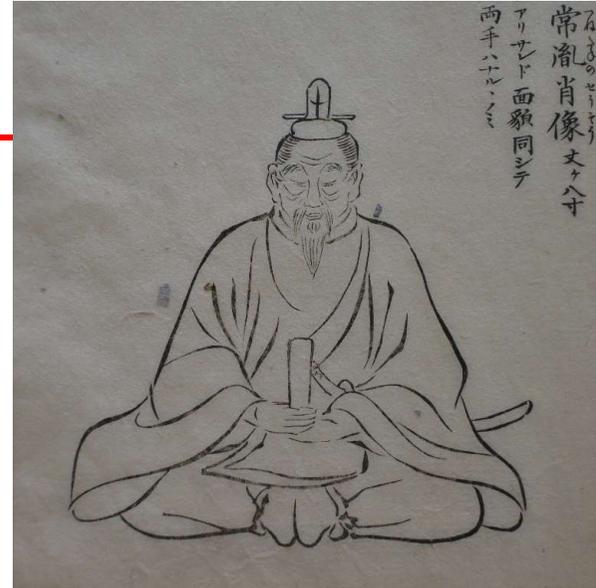
【中世（平安末～安土桃山）】

▶ 千葉氏の台頭

- ・ 鎌倉幕府の成立にともない千葉常胤が有力御家人の地位を確立。
- ・ 在地領主にかわって佐倉市域を支配

▶ 本佐倉城と臼井城

- ・ 本佐倉城
戦国時代、千葉氏の新たな本拠地として築城される。
- ・ 臼井城
2度の大きな合戦が起こる。



千葉常胤



臼井城跡

佐倉市の歴史と文化財

【中世（平安末～安土桃山）】

▶ 徳川家康の関東入封と佐倉

- ・小田原北条氏の滅亡にともない、千葉氏・原氏は命運をともにする
- ・代わって徳川家康が関東を支配
佐倉市域にはその家臣や一門が配置

▶ 中世城郭の廃城

- ・家康が全国支配を進める中で大名や家臣団の再配置が行われると中世の城郭は姿を消していく。



三鱗紋蒔絵四重椀（「岩富城主北条氏勝寄進資料」
（宝金剛寺蔵）のうち）（市指定）

佐倉市の歴史と文化財

【近世（江戸時代）】

▶ 佐倉城の築城と城下町の整備

- ・ 1610年、土井利勝が佐倉の領主に
- ・ 翌年から7年かけて佐倉城を築城。
- ・ 同時に、現在の市立美術館のある新町通りを中心とする城下町も整備。

▶ 佐倉藩の特色

- ・ 佐倉城は江戸を守る要衝の一つとして数えられ、有力な譜代大名が置かれる。
- ・ 多くの藩主を輩出したのが堀田氏。幕末の老中・正睦（まさよし）が有名



佐倉城復元CG



土井利勝



堀田正睦

佐倉市の歴史と文化財

【近世（江戸時代）】

▶ 佐倉と蘭学

- 1843年、蘭方医の佐藤泰然が佐倉に蘭医学塾診療所の「順天堂」を開く。
- 最先端の医学教育とその実践が行われる。現在は「佐倉順天堂記念館」として公開。



佐藤泰然



佐倉順天堂記念館

佐倉市の歴史と文化財

【近現代】

▶ 城下町から連隊の町へ

- ・ 佐倉城に陸軍の兵営所が設置される
- ・ 歩兵第2連隊、第57連隊が置かれる

▶ 堀田正倫と佐倉

- ・ 最後の藩主、正倫（まさとも）が旧領地である佐倉に邸宅（旧堀田邸）を構え、農事試験場を開設。
- ・ 佐倉中学校（現佐倉高校）に多くの支援を行うなど教育振興にも尽力。



佐倉連隊兵営所航空写真



堀田正倫

佐倉市の歴史と文化財

【近現代】

▶ 城下町から連隊の町へ

- ・ 佐倉城に陸軍の兵営所が設置される
- ・ 歩兵第2連隊、第57連隊が置かれる

▶ 堀田正倫と佐倉

- ・ 最後の藩主、正倫（まさとも）が旧領地である佐倉に邸宅（旧堀田邸）を構え、農事試験場を開設。
- ・ 佐倉中学校（現佐倉高校）に多くの支援を行うなど教育振興にも尽力。



旧堀田邸



佐倉高校記念館

佐倉市の歴史と文化財

【近現代】

▶ 佐倉の祭礼文化

- ・ 東京日本橋から江戸型山車を購入
- ・ 各町で御神酒所を制作し引き廻す

▶ 佐倉市の誕生

- ・ 1954年、佐倉町、臼井町、志津村、根郷村、和田村、弥富村が合併し誕生。
- ・ 1971年、黒川紀章の設計による市庁舎の建設。
- ・ 国立歴史民俗博物館の開館。
武家屋敷、佐倉順天堂記念館、
旧堀田邸などの文化財施設の整備・
公開



国立歴史民俗博物館

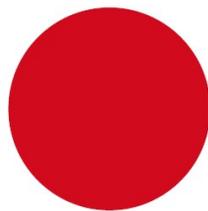
まとめりとして文化財を捉える

【日本遺産とストーリー】

▶ 関連する文化財を結びつける試み

・ 「日本遺産」

点在する文化財を、それぞれに共通する歴史文化で結びつける「ストーリー」を通じてパッケージ化。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

従来の文化財行政
個々の遺産を「点」として指定・保存

甲冑	→	国宝・重要文化財
寺社・仏閣、城郭、遺跡	→	史跡・名勝
伝統芸能	→	無形文化財・民俗文化財

「保存」重視

→ 地域の魅力が十分に伝わらない



日本遺産
点在する遺産を「面」として活用・発信



「活用」重視

→ パッケージ化した文化財群を一体的にPR

地域のブランド化・アイデンティティの再確認を促進

 **北総四都市江戸紀行**
～江戸を感じる北総の町並み～

北総四都市江戸紀行とは | スポット | モデルコース | ダウンロード | アクセス | アプリ紹介



世界から一番近い江戸を巡る

日本遺産に登録された
江戸を感じる四都市



まとめりとして文化財を捉える

【歴史文化と関連文化財群】

▶ 歴史文化

- ・地域の歴史や文化にまつわるコンテクスト。
- ・地域に固有の風土のもと、先人によって生まれ育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総体的に把握した概念

▶ 関連文化財群

- ・指定・未指定に関わらず多種多様な文化財を歴史文化に基づく関連性、テーマ、ストーリーにより一定のまとめりとして捉えたもの。

文化財リブレット「めぐる たずねる しる 佐倉」もくじ

佐倉市の歴史と文化財 2 ページ

マップ

佐倉市全域	6 ページ
佐倉地区	8 ページ
白井地区	10 ページ
志津地区	12 ページ

めぐる

日本遺産「北総四都市江戸紀行」	14 ページ
佐倉の武家文化	16 ページ
堀田家ゆかりの地をめぐる	18 ページ
蘭学めぐり	20 ページ
佐倉の秋祭り ―城下町の祭礼文化にふれる―	22 ページ

たずねる

佐倉城と佐倉連隊	24 ページ
白井城 ―戦国乱世の舞台―	26 ページ
本佐倉城 ―名族・千葉氏の本拠地―	28 ページ
井野長割遺跡 ―縄文のあしあと―	30 ページ
城下町の神社と仏閣	32 ページ

しる

佐倉の自然	34 ページ
人々の営みを伝える―史跡―	36 ページ
人々の営みを伝える―建造物―	40 ページ
信仰の場とかたち	42 ページ
佐倉城と武家文化	46 ページ
地域の民俗・祭礼・芸能	48 ページ
年表	50 ページ
文化財を知るための用語集	54 ページ
佐倉市内の指定文化財など一覧	60 ページ
主要参考文献	64 ページ

▶ 関連文化財群 の設定

地域性
×
時代性

たずねる

白井城

— 戦国乱世の舞台 —

地図は10ページを参照



【白井城跡空撮】



白井城のあらまし

白井城跡は、印旛沼に注ぐ手線川と鹿島川に挟まれた下総台地北端に位置し、かつての城域の北側は印旛沼に面していました。現在、城跡は白井城址公園として整備され、城郭の位置からは印旛沼が一望できます。

白井城は、15世紀中頃までに臼井氏の居城として築かれたと考えられます。16世紀中頃には、千葉氏の重臣であった原氏が臼井氏を追い出し、城主となり権勢をふるいました。1590年(天正18)、小田原の北条氏が滅ぶと、これに従っていた原氏は没落し、徳川家康の家臣であった酒井家次が入城します。その後、家次が上野国(現群馬県)高崎に移ると廃城となり、戦乱の舞台となった白井城は姿を消すこととなります。

現在残っている城跡は、築城された当初のものではなく、改修・拡張が進んだ戦国時代後期の様相を示すものです。



戦国時代の2度の合戦について

白井城は戦国時代に、2度の大きな合戦の舞台となった城です。一度目は、古河公方足利氏と関東管領上杉氏の対立により千葉氏一族が分裂し、足利方の千葉孝胤(のりたね)が臼井城にこもり、上杉方に攻められた1479年(文明11)の合戦、二度目の合戦は、北条氏と対立していた上杉謙信と里見義弘が原氏を攻めた1566年(永禄9)に起こったものです。

どちらの合戦も多くの死傷者を出した激戦であり、関東地方の戦国大名の情勢を考える上でも重要な合戦の一つです。



星神社(臼井妙見社) B-2

平安時代後期、千葉氏一族の臼井常康が、臼井の領主となった際に建てられたと伝わる妙見菩薩を祭った神社です。妙見菩薩は、北極星を神格化した守り神で、千葉氏があつく信仰したことでよく知られています。常康が臼井の領主となり、臼井城を築城したという話が伝わっていますが、定かではありません。



阿多津の碑

B-2

白井城址公園から東へ300mほどのところに、延享4年(1747)に造立された祠があります。この祠は、臼井氏中興の祖となった臼井興胤(おきたね)の乳母・阿多津(おたつ)を祭ったものです。阿多津は、幼い興胤を守って一族の内紛から逃しましたが、咳をしたため追手に見つかり殺されてしまいました。これをあわれんだ村人により祠が建てられました。また、咳どめの神様として信仰されお茶や麦がしが供えられています。



【阿多津の碑】



臼井田宿内砦跡

C-3

白井城の周辺に設けられた砦の一つです。土塁の規模や技巧的な空堀などから、16世紀後半の城と考えられます。臼井城と同時に機能し城の南側の防御を固める役割を持っていました。16世紀後半には、原氏が臼井城の城主となり、この砦跡はその有力な家臣が居住したものと考えられます。急速な都市化の中、唯一完存する臼井城の支城として価値が高い砦跡です。



【臼井田宿内砦跡】



太田図書墓

B-2

太田図書助貞忠(おたづしよのすけすけただ)は、江戸城を築城したことで有名な太田道灌(おたどうかん)の弟(甥とも)で、1479年(文明11)の臼井城での合戦で上杉氏の家臣として戦いました。激戦の末、臼井城は落城しますが、太田図書助は討死してしまいました。

臼井城跡の傍らにある石碑そのものは当時のものではありませんが、臼井城における激戦を今に伝えています。



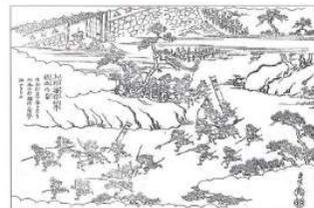
【太田図書の墓】



謙信一夜城の碑

C-4

16世紀中頃、臼井城の城主となった原氏は、小田原の北条氏と結んで成長し下総における実質的な中心勢力となっていきました。1566年(永禄9)、北条氏と対立していた上杉謙信、里見義弘は、下総における北条方の中心であった原氏の臼井城を攻めました。この時、上杉謙信が城を攻めるために築いた拠点がこの場所と伝わっています。合戦は当初、上杉氏・里見氏側が戦いを優位に進めましたが、籠城側の健闘と北条氏から送られた援軍により、臼井城はもちこたえ謙信は敗退しました。



【上杉謙信臼井城攻めの図】

将来のあるべき姿

* 計画の策定を通じて生まれる理想的な姿とは？

【あるべき姿】

- ・ 文化財の保存・活用への理解・共感が深まる
- ・ 文化財、地域の歴史文化の**確実かつ有意義な継承**につながる

▶ 理解・共感

次世代を担う人々が文化財、地域の歴史文化を重要なものであることを認知してもらおう。それが広く伝播し、幅広く共感が生まれる。

▶ 確実かつ有意義な継承

理解・共感してくれた人の中から保存・活用にも参画し担い手となる人を生む。それが継続されるよう、体制の確立と支援を後押しする。